

自主・友愛・剛健

サイクルマナーアップモデル校に指定!

令和4年度、美咲警察署より「サイクルマナーアップモデル校」ならびに「夜光反射材着用モデル校」に指定されました。

4月12日に岡山県警美咲警察署の青木署長様がお越しになり指定式を行いました。生徒会の関友紀会長は、全校生徒を代表して宣誓書を読み上げ、交通安全への意識を高めることを誓いました。どちらの取組も生徒自身が行動することはもちろんのこと、地域の皆様への啓発活動の意味も込められています。今年1月にも学校の近くで横断中の方が亡くなっておられます。



生徒の行動が中央地域の交通安全意識向上の助けになれば良いと思います。学校内でも、例年は4月から5月にかけて複数の自転車事故が起こっていますが、幸いにも本年度は、1名が通学中に転倒し擦り傷を負っている件のみです。自転車は、以前は被害者という意識が強かったですが、最近は加害者として多額の賠償を請求される事例もあります。街中では電動キックボードの規制等も始まるとのこと、常に意識を高く持って、1年間無事故で過ごしたいものです。

参観日・PTA総会を開催することができました。

4月30日に、参観日ならびにPTA総会を開催することができました。PTA総会については、実に3年ぶりの開催でした。ゴールデンウィーク中にもかかわらず、ご参加くださった保護者の皆様には、大変お世話になりました。

本年度は、『中央中学校PTAスローガン』も5年ぶりに刷新し、次のように決定しました。

令和4年度 中央中学校PTA スローガン

ひとりひとり 個性を認め 高め合う 感動 感謝 中央中
～ 今できる 最大限で 輝こう ～

このスローガンには、現在の世の中の様々な困難を乗り越えながら、それでも前に進もうとする想いを込めています。保護者の皆様も、生活スタイルの変化と共にPTA活動の難しさ、とりわけ時間的な制約にご苦労されていることと思います。しかし、そのような状況の中でも“できること”を“できるときに”行う少しの行動が集まることで大きな力になっていくはずです。全国的にもPTA活動の見直しが行われ、本校でも令和5年度より副会長を5名から4名に削減、更に専門部長も兼任する方向で進めています。まずは改革第一歩です。皆様からも良い改革案があれば、遠慮なくお申し出ください。

【6月の主な行事】※詳細につきましては、“中央中学校ホームページ”をご確認ください

1日：生徒総会・子ども議会議員任命式 3日：検尿2次 7日：耳鼻科検診
8日：職員会議 9日：歯科検診・PTAあいさつ運動 13日：学校公開週間開始
（～17日） 13日：3年生進路説明会 16日：3年生子ども議会
22日：壮行式 23日：3年生性教育講演会 24日～26日：美作地区総体
27日：期末考査前部活動停止（～7月4日） 28日：専門委員会

朝学習を始めています！



朝の8：25～35までの15分間を、昨年度までは毎日『朝読書』の時間に使っていました。本年度からは、全学年で週に2日間を『朝学習』に使っています。もちろん『朝読書』も今まで通り行っていますが、いずれの時間も大切にしていきたいと思えます。

クロムブック（タブレット）を使用し、美咲町が準備してくださった“eライブラリー”というソフトを活用します。5教科の現在授業で行っている内容の補充や、前学年の内容を含めた復習を、ドリル形式やテスト形式で取り組みます。自分のペースで行え、進み具合によっては他の内容にもチャレンジできるようになっています。1日に2教科行っているので、苦手な教科に時間をかけることもでき、生徒も積極的に取り組んでいます。



久しぶりに見ました！ 技術科の“釘打ちテスト”！

技術室の方から“トン・トン・トン…”と大きな音が聞こえてきたので、のぞいてみると、2年生が技術の授業で、「釘打ちテスト」に挑戦していました。釘を打つという単純なテストでしたが、わざと曲がりやすい、つぶれやすい釘で、しかも表面上だけまっすぐに見えても、実は本当にまっすぐ打っているか後でわかるようになっていました。まっすぐに打てた人が自慢げに笑顔でアピールしてくれました。なかなか家で釘を打つということがないでしょうから、貴重な体験だったと思います。



つばやき…

先日、久しぶりに給食を食べている様子を見に行った。もちろん黙食中…。全く声はなく、コロナ以前の給食時間とは明らかに違う。実はその朝、通勤中のラジオでウクライナの話が出ていた。もうすでに3ヶ月が過ぎ、大変な状況は変わっていない。内容はAMDA・アムダ（岡山市に本部を置く、国際人道支援組織）が、ウクライナの隣国ハンガリーで活動する様子だった。その中では、ウクライナから逃れた子どもたちが大声で楽しそうに笑っている…というもの。ウクライナの子どもたちは、戦地では声をだされなかった。見つかってしまうから3ヶ月近く声を出すことを控えてきた。ハンガリーに着いた時に一番うれしかったのは、大声で笑えたこと…だそう。日本でも、戦時中に沖縄で同じ話を聞いたような…。様々な思いが巡り、胸がつかえるようだった。もちろん比較できることではないが、いつになったら子どもたちの“大笑い”が聞こえるのだろうか…。